

令和6年度第20回 契約・調達委員会 審査概要

開催日時
及び場所

令和6年8月2日（金）10:00～10:15
JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 3階
公益財団法人日本陸上競技連盟内 会議室3/オンライン

出席委員

世界陸上財団 事務次長（委員長）	遠松 秀将
弁護士	原澤 敦美
公認会計士	黒石 匡昭
世界陸上財団 総務部長	田近 隆
世界陸上財団 企画部長	白石 正樹
世界陸上財団 財務部長	前山 琢也
世界陸上財団 業務開発部長	小林あかね

（敬称略・7名）

案件 1

東京2025世界陸上競技選手権大会メダル等製作業務委託

契約方法

希望制指名競争入札

審査案件

概要

○ 世界陸上大会で優秀な結果を出した選手に授与するメダル及びメダルリボンの制作等を行う。

○ 主な委託内容は以下のとおり

メダル及びメダルリボンのデザイン案の確認等	財団が作成したメダル及びメダルリボンの平面デザイン案（3案ずつ）について、立体化の再現性等について確認 ⇒ 製作上の懸念がある場合には、平面デザインを微修正
メダル及びメダルリボンの製作	試作用、発表用、本大会用のメダル等をそれぞれ製作
メダルの刻印	競技結果決定後、表彰式までにメダルの片面へ、種目名、選手氏名、国名の3行を刻印

○ 契約期間：契約確定の日の翌日から2025年10月31日まで

審査結果

➤ 案件1について、契約締結前（入札経過、契約候補者、契約金額）の審査を実施し、了承された。

（案件1について）

○原澤委員

入札手続は全く問題ないと思うが、下見積に参加した事業者のうち、落札者を含む複数事業者が、下見積額よりも大幅に低い金額で入札しており、予定価格が適正であったのか懸念が残る。入札額が下見積額より大幅に低下した理由は何だと考えているのか。

⇒ 所管部

落札候補者が提出した内訳書を見ると、下見積の段階では、試作用のメダルと発表用・選手用のメダルを別工程で制作する経費を計上していたが、入札時には、これらの工程を分けることなく、一括して制作することで、制作経費の大幅な節減を図っていることが確認できる。

⇒原澤委員

入札額が低下した理由について合理性があることを理解した。

委員の
主な意見
(要旨)

○黒石委員

今回のメダル等制作委託の内容等を過去の同種大会などとベンチマークすると、概ね妥当だといえるのか。

⇒ 所管部

仕様に盛り込まれていることについては、網羅的に見込まれていることから、合理的であると考えている。一方で、営業努力等からメダルの制作コストを下げていることから、品質確保という点で、契約締結後も、財団としてしっかりと履行確認をしていくことが重要だと考えている。

○小林委員

試作メダルについてだが、材質は全て銅で同一にも関わらず、メダル1個当たりの単価が下見積から入札時に増額している理由は何か。

⇒ 所管部

事業者から提出された内訳資料等を確認すると、銅の素材単価が上昇したわけではなく、製造工程を精緻化したことにより発注ロットに応じて1個当たりの単価が上昇したものと推察される。